

信濃美術館整備検討にかかる意見交換会（東信地域）

日 時：平成 28 年 10 月 9 日（日）午後 2 時から午後 3 時 50 分

場 所：佐久合同庁舎 401 号会議室

参加者：11 名

概 要

[主な意見]

<運営・整備姿勢>

- どうやって県民に美術に関心を持ってもらい、美術館に来てもらうようにするのか。これは非常に難しい課題。
- 「基本構想」の際に、新たな県立美術館を表象するインパクトのある言葉を考えたらどうか。
- 「基本構想」を形にするときに予算の関係で妥協する部分がどこになるのか心配。美術館の本質的なところにはしっかりお金をかけてほしい。
- 「基本方針」は、信濃美術館の課題を洗い出した上で、新しい県立美術館のあり方を示している。新しい美術館に期待している。

<開館時期>

- 新しい美術館はいつできるのか。

<施設の課題>

- トラックヤードが不十分で、信濃美術館の関係者は美術品の管理に非常に苦労している。施設の課題を多くの人に知ってほしい。

<常設展示>

- 収蔵作品が 4,000 点もあるのに常設展示室がないのは残念である。

<県民ギャラリー>

- 長野には華道展が開催できる場所がない。華道展は子どもからお年寄りまで集客力がある。ぜひ様々なことに使える貸しスペースを作ってほしい。
- 県民の作品を展示できる県民ギャラリーの充実は必要。佐久市近代美術館でも一番人が集まるのは地域の子どもの展覧会、佐久平の人が描いた絵の展覧会。県民がたくさん訪れることにより信濃美術館の知名度も上がる。

<県内美術館との連携>

- 長野県は中心が 7 つある。北にある信濃美術館が中核になるには、相当な気構えが必要。7 つある中心をどのようにまとめていくのか。長野県は非常に難しいところ。

<大学と連携>

- 県立大学ができる。信州大学もある。他の大学も含めて大学間の連携の中に美術館も入り、研究面で連携を図れるとよい。

<調査・研究機能>

- 全国の県立美術館は、調査・研究に費やす面積が十分確保されていないところが多い。調査研究は目玉になる。信濃美術館でフォローできない資料は他館との連携で提供できればよい。今の時代はリサーチや文献研究の時代。
- リサーチセンターには、デジタルによる資料収集の他に、専門的な知識を持ったアーツライブラリアンが必要。

<駐車場・アクセス>

- 東信地域から信濃美術館に行くには車を使う。駐車場を整備してほしい。
- 善光寺の参拝客と美術館の来館者を上手に交通整理しないとイケない。
- 電車で来る人のことを考えると美術館行きのバスがないことは問題。気軽に美術館に行かれるようにしてほしい。
- 関西から来た知人が、善光寺を参拝した後、信濃美術館に行こうとしたが、場所が分からず帰ってしまった。新しく美術館を建てる際には、善光寺から美術館が分かるようにしてほしい。

(以上)